

観光資源としての「竹」・生活に潤いを与える「竹」の可能性を探る
大井里山保全協議会

2020年11月21日(土)、みねおかいきいき館第2体験館で安房地域で「竹」を素材に日常的に活動して団体・個人がその活動を紹介・交流の場が持たれた。これは、観光協会の秋のイベントとしてコロナ感染対策を実施し、余裕のある空間と事前登録制で、開催された。

伝統工芸である房州うちわ、安房発祥の浮書絵彫り、鴨川地域の竹細工の会、高家神社の竹灯り、千葉工大からは篠笛、竹灯りデザイン、竹のレーザー加工技術更に、竹炭試験炉にろ材を提供頂いたメガテックさん、県議の川名康介氏も参加。大井青空クラブが育てたサツマイモを使った焼き芋も金井石油さんのガス式の石焼芋機械で提供された。

これは、「このような環境下でも出来ることがある」「この先を見据えて関係者の交流」更には、「提携・連携への道を探る」イベントでもある。

豊富な内容でもあり、時間があっという間に経過したが、NPOトジバの青木氏が全体をコーディネートしたこのつながりは大きな流れを作り出す可能性を示した。それは、それぞれの共通性として、「体験型の観光」への道を開くものであったと思います。



このあと、希望者はじんべゑに設置の竹炭試験炉のほうに移動して、技術的な意見の交換を実施しました。

